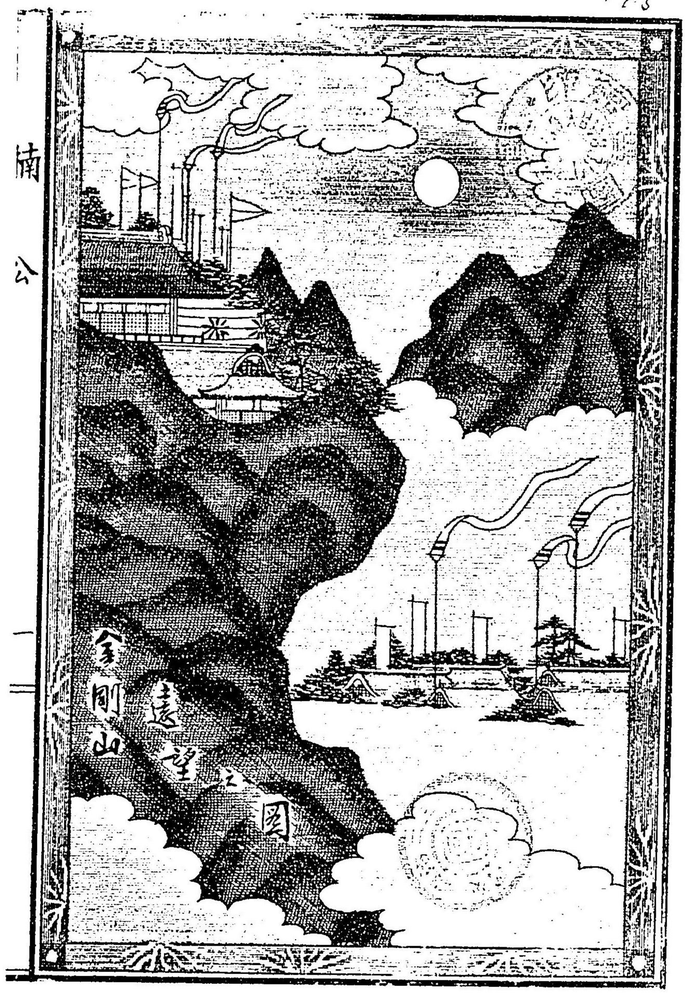
J-12
875

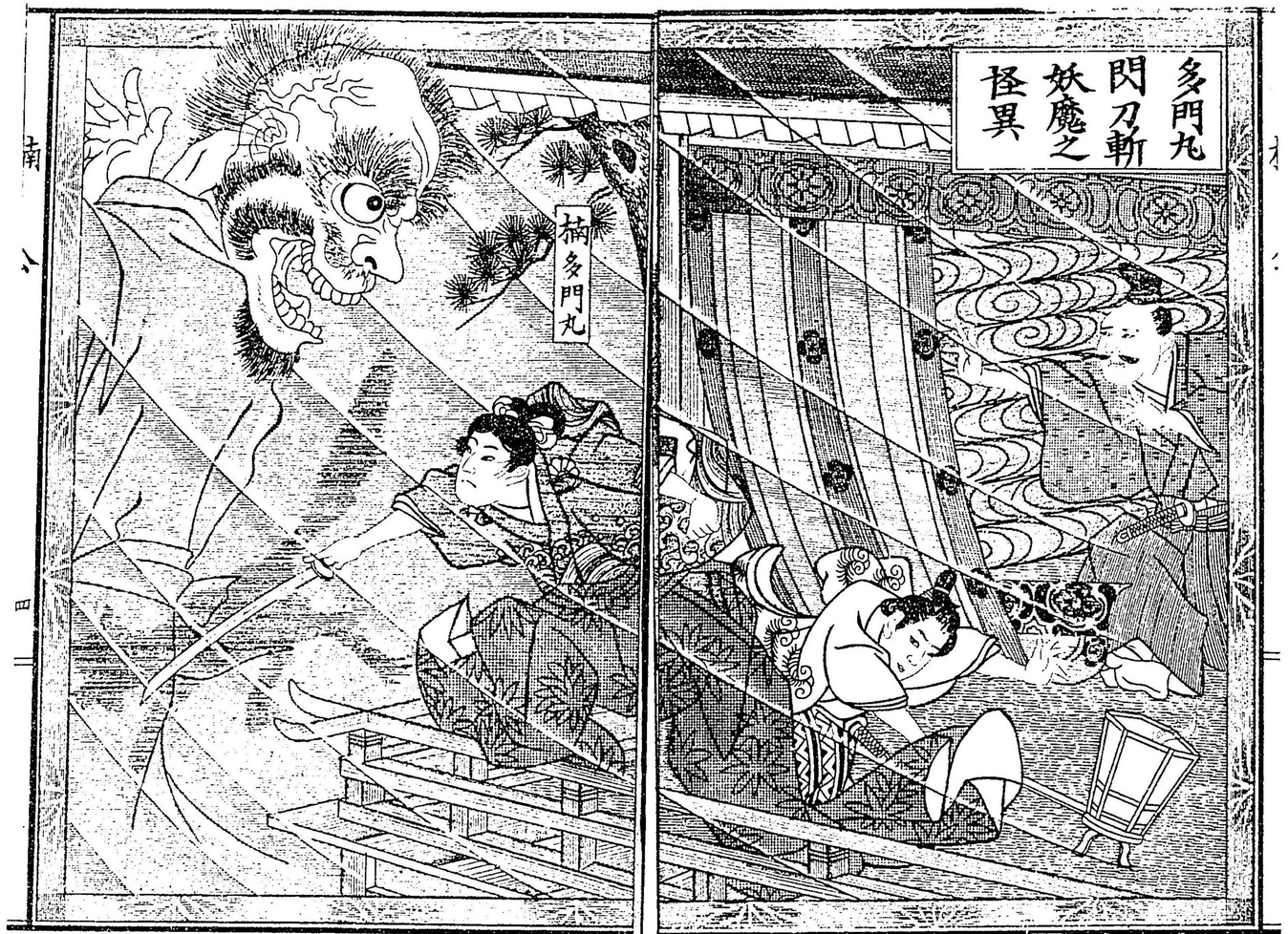
本錄

楠公忠臣錄

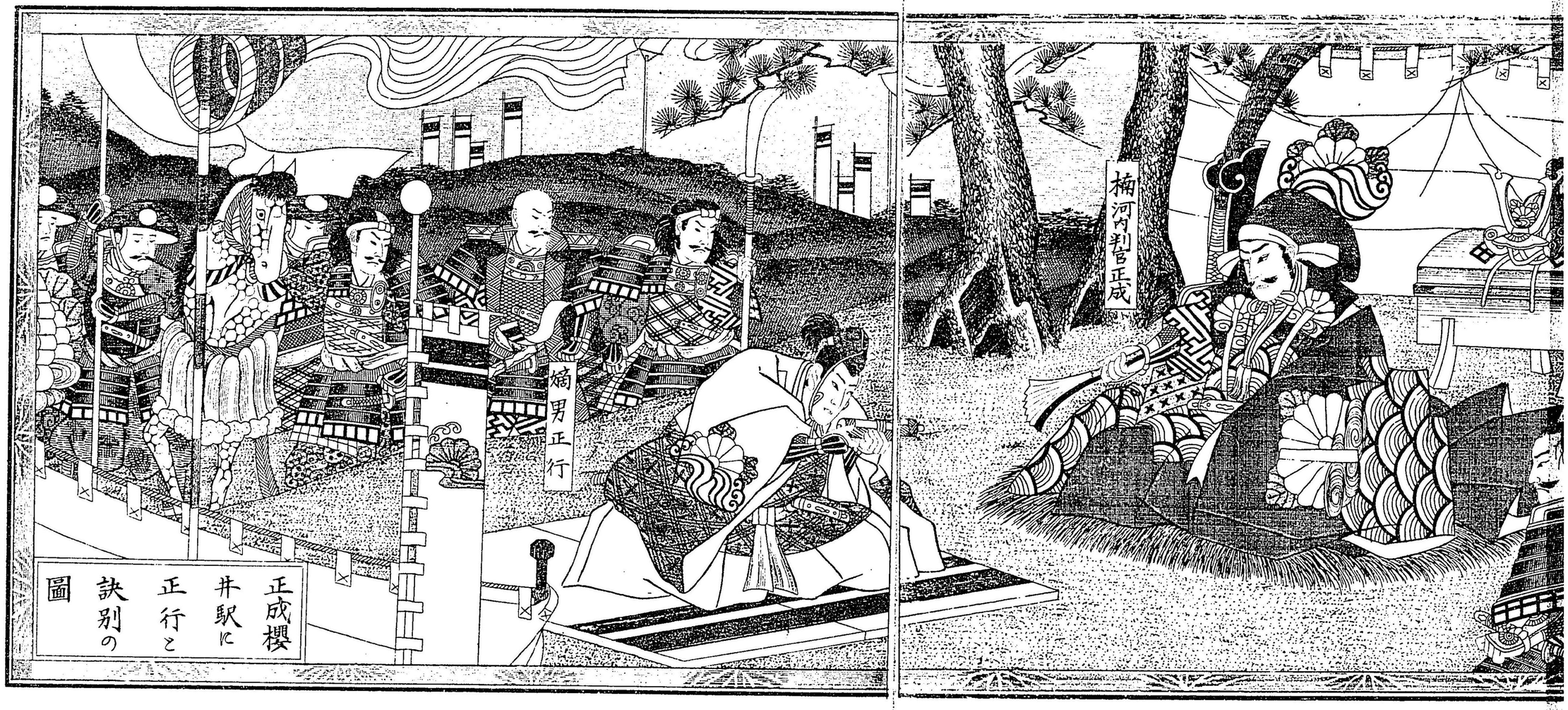
全

6543/45




多門丸
閃刀斬
妖魔之
怪異
摘多門丸

楠河内判官正成
嫡男正行

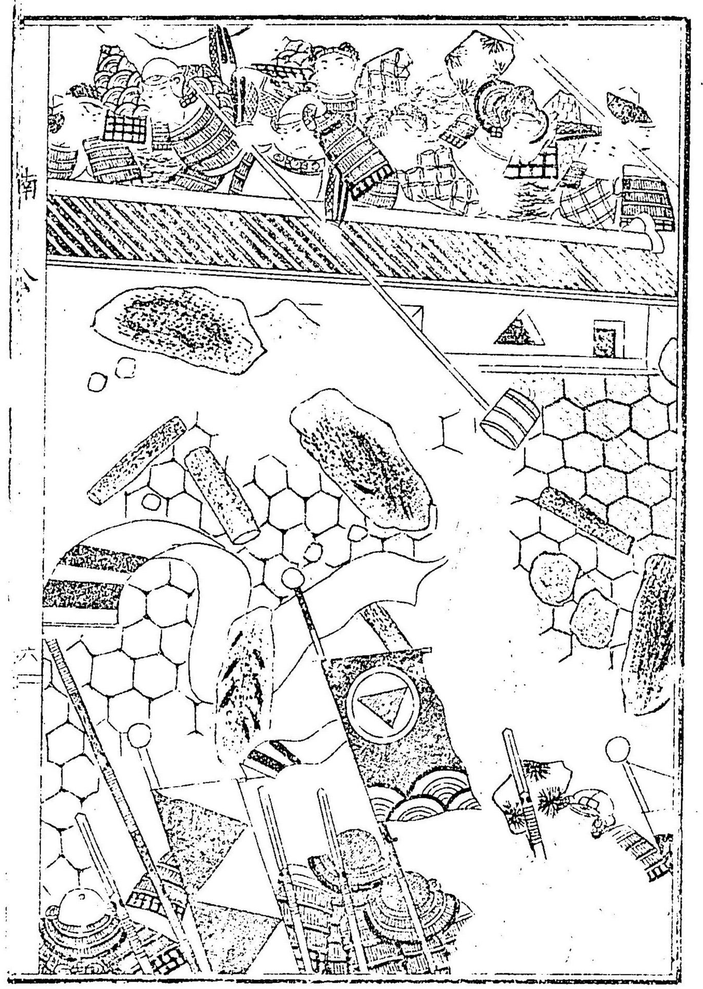


正成櫻井駅に正行と訣別の圖

發端
人皇九十五代御醍醐帝の御宇に当り河内国笠置山の麓に二千貫の地を領し威を近国に輝したる
正玄の子に多門丸て幼少より才智過れ兵昏を大江
北條相模入道
高時
群臣を呼て集議する時長崎新左

匡房卿ハ就講究を一を聞く十を悟るの才あれば僅か二ヶ年にして之れが蘊奥を極む茲に鎌倉の北条相模入道高時ハ奢侈に耽り政道を忽にするを故天皇窃に之を誅伐せんと公卿を集め密々謀を為し玉ふ高時報を聞き大ひに驚き
工門進み出て策を述べ遂に天皇を遠国へ移し参らせ大塔宮を硫黄が島へ流さんことに決せ仍て二人の使者名兵三千を付て京へ登せ其手續に取り運ばせける
次上

積た　此事早くも廠閣に
達せらるゝ驚き一方ならず
諸臣を召しゝ評議あしく
即夜市輿に召させられ婦への
行裝にて僅の人数を引連れ
陽明門より出て南都の東南院へ入
らせられ又々笠置へ御幸せられ
けるに多聞丸正
成の勇武を慕



つ、ぬ

れ夢に托〳〵正成を召し東夷征討のことを托した

まふ正成則ち五百騎にて赤坂城に楯籠りけれハ高時大ひに愕ろき其勢二十七万余大佛貞直を大將と〳〵赤坂城をかこむ正成二百の兵を城中に止め舍弟を〳〵殘兵三百騎を率ひ城外一里斗りの處に陣せ〳〵めと東軍更らに心づもを四方へ迫り〳〵攻めけれハ城中より弓鉄炮一度に突と射下し千余人殺傷出来し故一と先ッ休足為〳〵居る折うり七郎う兵関をつくり〳〵不意に起り前後左右を離ぎ廻りハ城中より討く出く

楠が兵

○急に惣責もとかせに此度ハ長柄の柄杓にて熱湯

湯浅孫六

狹ミ討ちに遇ふて敗北せ翌日又々十万兵にて攻寄せる寄手近づく頃二重の屏れ切て落其上木石を投出さん手人余も討たれ故敗北せ東軍其に

つゞき

を頭上より灌ぎ掛け
り
けられけれども五百人
半死半生にて引
退く茲に楠正成ハ夜赤
坂を出で金
剛山に入り
けれバ東軍
正成を死せしと思ひ湯浅を城へ
留めて帰陣
あり正成誅れ以
て再び赤坂を取返し近国の
兵来り従ひて勢ひ振ふ其
人数大凡三千人手負
龍る
鎌倉の兵雲霞の如く攻め寄せ
巨木大石を雨より烈しく投げ
強兵数千人
今や城中降ら
んとする城内より松明へ
火を付けて投げ
出せ油を
灌ぎ
に雪掛途中
より焼き拂ひ
谷へ落ちて焼け

出せバ人馬楯板迫来塵に砕
け死傷ハを六千にる
東軍呆れ果て種々工風
を凝し雲梯を掛けて

死をるもの
数知れぬ
然るに足利
尊氏ハ宮
軍に降
り新田
義貞ハ
鎌倉の
空虚
を責め
く遂ひに北
条を亡ぼし
天下請様に
属し各
恩賞をた
まわり

次エ

茲に足利高氏ハ護良親王の才武已れの上に出づるを悪み譖れ構へて帝に奏し帝大ひに怒りまゝ直義に命して流刑に處せむ直義親王れ土牢に押入れ淵邊伊賀れ〜て測川殺さむ

尊氏婚々専横を極め帝に迫りて征夷大將軍ならことを望みが許させられざるれ以て怒りて兵れ挙げ其勢強大なり朝庭郡臣を召して協議したまふ正成謀を献して必勝れ図

撰り其勢凡八十萬
大海の波に動ら
して来るもの
の如し之れ
より先き楠正成
ハ義貞と策を合

続記

聞くと云へども
聞ひらゆ也藤原藤房卿の
謀計に夾り是に從ふ集軍も
新田義貞ハ兵六万七千も催しく
都を出づ鎌倉さして進み行くに
連戦連勝竹の下に到りしに義貞
舎弟義助兵を過りけれバ惣敗
軍とハ成にけり尊氏威勢増々強
遂に京都に入る正成河内摂津の
兵を催し義貞と策を通じ
て敵の糧道を断ち挟撃ゆし
けれバ尊氏の大軍大に敗れ大友肥後守の迎船に
乗りく筑紫へと落にけり都にくい上下聊ら心を
安んぜる間もなく高氏四国中国九州の兵を。

楠兵衛正成

せ追討して尊氏の首を上げんと企し
に義貞此度武功に依つく主上帝喜
びの餘り尤近衛中将に任せ
られ刺さへ義人
揚貴妃
をも欺
むく匂
當内侍

つ旗を下げさせける故義貞の喜び一方ならず日夜愛酒

色にのみ耽りける内遂に高氏を逐うことを世に為ぶに如斯大軍を引率し来り宗家を危うもるに到りたるは歎かきことも多し

義貞兵を俱し兵庫の浦へ越き西軍を防ぐ準備を為せ正成も我が謀計用ゐらるゝと虽とも止むを得ず帝に親しく申目見へあしゝ訣れつゝ六千余騎を率ゐ櫻井駅に陣し

息正行を教訓し河内国へ帰し自らハ五百余騎に搦

攝津渓川に陣を義貞義治ハ和田岬へ廻りて東軍の上陸を防ぎ〻ども大軍にハ敵し難く次

新田義貞鎌倉征代之折龍神に祈りて太刀を海中に投せ

宇治橋合戦新図船図超橋図
新田義貞
謀を議し陰りに伏兵を置き使者を楠へ使ハしく云ひけるハ尊氏貴殿と旧友の好を以く
足利直義ハ正成の死戦に敗北せしを大ひに憤り尊氏と
続紀
遂に破れけり足利勢大軍を帥ひ湊川

船田入道
討ちまのらんとも然る可し
と申し送る正成打ちたゝひ仰いや及ぶべき貴殿勢何百万騎たりとも
の八方を囲こ隙間もなく
切り立つ
ハゞ正成諸軍を下知〳〵く戦
道らんこと容易なりと
返事遣しける尊氏宗に相違しけるゆへ廣嚴寺をバ十重二十重に取り囲みけり正成ハ矢尾三石伊藤の三人を敵中へ忍バせ時分ハよ〳〵と三人直義の本陣に菊水の旗を飜と挙げ正成茲にありと呼ハハ敵兵大ひに驚きうろたゑ躁ぐ此間に主従六十余人
次ページ
十二

明治二十三年十月廿日印刷
仝年十月廿日出版
著者印刷兼出版人
東京市本所区横網町二丁目十八番地
鎌田在明
つき
客嗽
はく切腹あり。
賊せり
美名を後世に
楠正成